

株主の皆さまへ

株式会社 あおぞら銀行

あおぞら銀行第 89 期定時株主総会（2022 年 6 月 22 日開催）において
株主の皆さまからいただいたご質問等のご紹介について

株主の皆さまには、2022 年 6 月 22 日に開催いたしました当行第 89 期定時株主総会へのご出席およびライブ配信のご視聴をいただきまして、誠にありがとうございました。

お寄せいただいたご質問等につきまして、以下の通りご紹介申しあげますのでご覧ください。

今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

1. 事前にいただきましたご質問等

昨年に引き続き、本年も事前に書面やメールでご質問等を募集いたしました。事前にいただきましたご質問等は以下のとおりです。

ご質問等項目	回答
1. 株主優待制度の廃止について	株主総会議場での質疑応答に先立ち、ご質問等の内容をご紹介するとともに、一括してご回答申し上げました。
2. 配当額、株価について	下記 2.の「事前質問へのご回答」をご覧ください。

2. 株主総会においていただきましたご質問等、および、株主総会においてご紹介したライブ配信を視聴された株主さまからのコメント（質疑応答要旨）

（上記 1. 事前質問のご紹介）

1. 株主優待制度の廃止について

4 年前に株式購入後、毎四半期に 1 回 500 万円の定期預金 3 か月を設定し、その都度 3 千円のギフトカード、年間 1 万 2 千円の優待を受けていました。今般の制度廃止にあたり、配当金額を上乗せするなど個人投資家の受ける損害を極力少なくする努力をしていません。株主優待制度を従前の条件のまま復活させてほしい。

2. 配当額、株価について

購入時の配当額は180円を超えていましたが、すぐに配当減額となり、購入時の株価は4,300円程度でしたが、現在の株価は半値近くに下落しています。経営改革や市場へのPRも十分でなく株価は一向に回復しないので、市場をびっくりさせるほどの経営改革を大々的にPRし、株価の暴騰を呼ぶような事業を断行してほしい。

(回答 谷川議長)

当行株式をお持ちいただくとともに、これまで株主優待制度をご利用いただき、誠にありがとうございます。

株主優待制度につきましては、2013年に制度を開始して以降、これまで株主の皆さまにご利用いただいてまいりましたが、昨年の株主総会における株主さまからのご意見も含め、皆さまのニーズにあった制度となっているか検討を行いました結果、全ての株主さまに対して配当等によって公平な利益還元を行うことを基本とする観点から、昨年12月に制度を廃止することとさせていただきます。これまでご利用いただいていた株主の皆さまには、何卒ご理解を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

配当額、株価につきましては、過去の最も高かった水準と比べますと現在それを下回る水準となっていることにつきまして、今後一層の経営努力が必要であると考えております。

2021年度の普通株式年間配当につきましては、当期純利益が前年度を上回る実績となったことを踏まえ、前期比25円、期初予想比21円の増配となる1株当たり149円とさせていただきますほか、2022年度も年間配当予想である154円を目指して業績目標の達成に取り組んでまいります。

現在の経営環境は、足元の金融市場の影響を受け不安定な状況にありますが、現在取り組んでいる様々な経営改革を加速していくことで市場から高い評価をいただけるよう努力を重ねてまいりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(会場株主さまからのご質問1)

配当性向が50パーセントと、他の多くの上場企業と比べても大変高い数値になっていると思いますが、たまに配当性向を100パーセントにしますというような企業も現れています。今後、配当性向をもっと高める可能性などお考えでしょうか。

(回答 谷川議長)

先ほどの事業報告のご説明のとおり、当行は高いROE、ROA、ならびに低いOHRが示すように、高い収益性と効率性を財務の特徴としております。これまで生み出されてきた付加価値により、財務資本と非財務資本を拡大し、健全性を維持しながら、株主の皆さまへの安定的還元と今後の持続的な付加価値創出のために必要な投資を継続していく方針です。

全体としてこれらのバランスを考えながら、業績予想に向け更に実績を上げていくことで増配につなげてまいりたい、また配当については現時点では配当性向50パーセントを基本に据えつつ総合的に判断をしてまいりたいと考えております。

(会場株主さまからのご質問2)

第4号議案について質問です。当行監査役は、第3号議案の1名を含めて3名で、法令に定める最低限の人数だと思います。そして第4議案は、不測の事態に備えて補欠の監査役を選ぶと認識していますが、なぜ2名なのか、1名でいいのではないかと疑問に感じた次第です。2名を選ぶ理由を説明いただけますか。

(回答 谷川議長)

まず、吉村晴壽氏につきましては、社外監査役以外の監査役の補欠として、ミッチ R. フルシャー氏につきましては、社外監査役の補欠としてふさわしいと判断いたしました。監査役の補欠監査役、および社外監査役の補欠監査役と、それぞれ1名ずつ計2名の選任をお願いしているものであります。

(会場株主さまからのご質問3・4)

冒頭の事前質問に対する回答に関してお聞きしたい。株主優待で得られるギフトカードの金額は、100株の株式配当に換算すると年間120円になると思います。4年前の配当が180円あったということで1株計300円くらいの収入があった。それが急に120円削られたという感覚です。全ての株主に公平な利益還元として配当を優先するなら、配当はもっと上がっていいはずで、配当性向の50%枠と別に株主優待枠があって当然と考えています。株主優待の利用がどれだけあって、コストはどれだけで、その結果こう整理したという説明が聞けていないと思います。また役員賞与を増やすお金があるなら、株主優待は廃止しないほしいと言いたい。

コスト計算して影響が少ないのであれば制度は継続すべきです。

(回答 谷川議長)

株主優待制度の廃止にあたりましては、事前質問へのご回答のとおり、様々なご意見がある中、私どもでご利用状況その他を含めて総合的に判断をさせていただき、やはり全ての株主さまに対して公平に還元していくことがふさわしいと考えたものです。

なお、配当金額が180円から減ったとのご指摘ですが、現在は149円まで水準を戻しており、今年度は業績予想から154円を目指しているところです。ご理解を賜りたいと存じます。

(会場株主さまからのご質問5)

本日、札幌から参りました。あおぞら銀行札幌支店とはお付き合いがあります。

都内の交番であおぞら銀行の支店の場所を尋ねたら、他の銀行の間違いでとは教えられまして、あおぞら銀行は都内でも知られてないなと思いました。

さて、私は招集通知にあるセグメント利益についてお尋ねしたいと思います。ここでは、法人営業のほかにファイナンシャルマーケットやスペシャルティファイナンスが稼いでいるグループと見えますが、カタカナでは分かりにくいので、それぞれどんな仕事をされているのか日本語で分かりやすく教えていただきたいと思います。

(回答 谷川議長)

個人営業グループは、株主さまがご利用いただいている札幌支店を含め、個人のお客さまとのビジネスを展開している部門、法人営業グループは、事業法人等とのビジネスを行っている部門、金融法人・地域法人営業グループは、全国の地域金融機関を始めとした金融法人、および地域の法人との取引等を行っている部門です。そしてスペシャルティファイナンスグループとは、不動産ファイナンスあるいは再生ファイナンスといった業務を中核としている部門になります。インターナショナルファイナンスグループは、いわゆる国際部門で、ニューヨーク、ロンドン、香港など海外現地法人を抱え、海外向けローン等のビジネスを展開しています。ファイナンシャルマーケットグループは、いわゆる市場部門で、有価証券運用など ALM 運用を行っている部門になります。

各セグメントの利益は招集ご通知に記載のとおりですが、様々なビジネスに取り組んでいることがお分かりいただけたと思います。今年度の重点施策として、あおぞら型投資銀行ビジネスに一層注力をしていく旨を説明いたしましたが、変動幅の大きい金融市場に適切に対応しながら、今後も成長に向けてビジネスを拡大してまいりたいと考えております。

また、あおぞら銀行の知名度がまだ足りないのご意見も頂戴しました。貴重なご意見として承り、今後も積極的な IR 等にも取り組んでまいりたいと考えております。

(会場株主さまからのご質問6)

日銀の出口戦略を見極めたいと思っておりますが、いずれ金利高になってくると思います。個人的には長いデフレもその前のインフレも見てきましたが、今後を考えたときにあおぞらにとってどちらが経営しやすいのかをお聞きしたいと思います。

(回答 谷川議長)

あおぞら銀行グループは、コンパクトな規模ながらグローバルにビジネスを展開しております。そのため米国、欧州、アジアとグローバルな経済の影響を受けますので、現在のインフレ状況、金利、株価、あるいはクレジットの動向を常に注視しております。最近では米国のインフレと金利上昇から市場の混乱を招いていますが、一方で世界的インフレの背景には地政学リスクの高まりや感染症対策があります。これに加えて、実はいま経済構造の歴史的転換点にあって、それが一つの変動要因になっているのではないかと感じています。

こうした経済産業構造の転換自体が、あおぞら銀行グループにとって得意とする環境であり業務分野である、今が取引先の支援や社会の発展に貢献することができる好機であると考えているところです。今後日本でもこうした動きがますます加速していくと思いますので、我々もお取引先とともに変化を加速させていくことで、当行グループの成長につなげてまいりたいと考えています。

(ライブ配信を視聴された株主さまからのコメント1)

ハガキで議決権行使をしたが、スマート行使用のプレゼント抽選に参加したかった。

(回答 谷川議長)

このキャンペーンは、株主名簿管理人である三井住友信託銀行様が、スマートフォンによる議決権行使の普及を図るために行っているもので、当行をはじめ同行が株主名簿管理人を務める全上場企業共通で実施をされている企画になりますのでご理解をいただきたいと思えます。

(ライブ配信を視聴された株主さまからのコメント2)

2023年の連結粗利益が増えていないのはなぜでしょうか。

(回答 谷川議長)

2022年度の業績予想につきましては、2021年度とほぼ同水準とご説明いたしました。お客さま関連ビジネスは引き続き順調な拡大を見込む一方、金融市場の混乱もあり、有価証券運用ビジネスについて慎重に見込んでいるものです。なお、当期純利益につきましては、昨年度の実績を上回るよう、それに伴い配当も増加できるよう業務に取り組んでまいります。

(ライブ配信を視聴された株主さまからのコメント3)

ロシア・ウクライナ問題で、あおぞらにはどんな影響があるのか教えてください。

(回答 谷川議長)

ロシア・ウクライナに関連した直接の与信はありませんので、直接の影響はございません。但し、当然ながら今回の地政学リスクの高まりに伴う影響は、金融市場にも企業業績にも様々な局面に及んでまいりますので、今年度のトップリスクの中に折り込み、様々なリスクに適切に対応してまいりたいと考えております。

(ライブ配信を視聴された株主さまからのコメント4)

他行のように、TOBを仕掛けられないか心配です。何か対策はされていますか。

(回答 谷川議長)

現在、あおぞら型投資銀行ビジネスに取り組んでいますが、こうした業務を通じて市場の評価をいただき、あおぞら銀行グループの存在感を高めていくことが、まず基本であると考えております。それに併せて、従来にも増して株主の皆さまや投資家の方々とのコミュニケーションを緊密に取らせていただきたいと考えております。

(ライブ配信を視聴された株主さまからのコメント5)

他行でシステム障害がたびたび起きているようですが、あおぞら銀行では大丈夫ですか。

(回答 山田常務執行役員 CTO)

当行におきましても、他行の事例なども参考にしながら、システムの開発やそのシステムの運用に入る各時点で、検証を徹底しています。また、システム障害が起きる可能性もゼロではありませんので、そうした事態に備え、特にシステムの重要な変更を行う場合において、

業務部門とも情報を共有し、お客さま対応にも万全を期す態勢で臨んでおります。

(回答 谷川議長)

こうしたシステム障害が起こらないよう万全の態勢で臨んでおりますが、万が一障害が起きた場合への対応が極めて重要ですので、様々な訓練を繰り返し行っている点も付け加えさせていただきます。現実には関連部署間でのコミュニケーションが重要になりますので、銀行を挙げた訓練を今後も継続してまいりたいと考えております。

(会場株主さまからのご質問7)

廃止された株主優待を受けるには手間もかかり、利用も少ないかもしれないが、コストもかかっていないと思うので、制度を残すことで選択肢を増やすべきだと思います。仮にコストが大きいのであれば、その金額を配当性向に何%上乘せするといった数値の情報がほしいと思います。

(回答 議長)

株主さまへの還元につきましては、現在配当性向 50%とさせていただいておりますが、配当等を優先しながら、今後とも当行の状況や市場の状況、あるいは株主さまのご意見等をふまえて総合的に判断してまいりたいと考えております。

3. その他ライブ配信を視聴された株主さまからいただいたコメント

ライブ配信を視聴された株主さまからいただきました、その他の主要なコメントにつきまして、以下のとおり私どもの考え方をまとめておりますのでご回答とさせていただきます。なお、株主総会議場でご紹介いたしましたコメントと内容が重複したコメント等につきましては割愛させていただきます。

(コメントにつきましては原文のまま掲載させていただきます。)

コメント1	女性の管理職はどのくらいいますか。
回答	当行は、人的資本の持続可能性をサステナビリティ重点項目のひとつと位置付けております。中核人材の登用における多様性の確保についても積極的に取り組んでおり、2022年3月末現在、女性管理職比率は12.5%、女性調査役（係長級）比率は37.1%となっております。

コメント2	カーボンニュートラルへの取り組み状況を教えてください。
回答	当行は、気候変動への対応をサステナビリティ重点項目のひとつと位置付け様々な取り組みを進めております。招集ご通知45-46ページに記載の通り、事業者としての脱炭素化に向けた取組を推進するとともに、お客さまとのエンゲージメントを通じて気候変動対応や脱炭素化への移行を積極的に支援し、2050年カーボンニュートラルの実現を目指しています。

コメント 3	店舗の移転が進み、拠点が減っているが大丈夫でしょうか。不便になりました。
回答	お客様の行動様式の変化に合わせて、交通アクセスのよい場所への店舗移転や、ランチ・イン・ランチ方式による店舗統合等、常に店舗戦略の見直しを行っております。従来型の店舗に加えて、シェアオフィスを活用することでお客様の利便性の確保に努めつつ、専門性の高い総合コンサルティングによりお客様のニーズにお応えできるよう努めてまいります。

コメント 4	あおぞら銀行と GMO あおぞらネット銀行の違いと位置付けを教えてください。またネット銀行の業務状況を報告をお願いします。
回答	あおぞら銀行では、個人、事業法人、金融法人等のお客様に対して総合的な金融サービスを提供しております。スマートフォンアプリ「BANK」による個人のお客様向けサービスについても好評をいただいております。GMO あおぞらネット銀行では、「スモール&スタートアップ企業向け銀行 No.1」「組込型金融サービス No.1」「テックファーストな銀行 No.1」を目指し、法人のお客様を中心にサービスを提供しています。

コメント 5	役員報酬増額に関する回答が有りません。
回答	株主総会冒頭の報告事項の補足としてご説明申し上げた通り、2022年5月23日開催の指名報酬委員会の決定に基づき支給を行いました。招集ご通知 55-57 ページに、報酬決定に関する基本方針を記載しておりますのでご参照ください。

コメント 6	株主優待については廃止で異論ない。一方、株主優待以外で有効に活用できていないと判断できる事案についても、しっかりと廃止など見直しを行ってください。
回答	貴重なご意見をありがとうございます。引き続き各業務について、継続的に見直しを行い、改善に取り組んでまいります。

コメント 7	本日の視聴者はどのくらいですか。
回答	概ね 150 名強の株主さまがご視聴いただいたことを確認しております。

コメント 8	インターナショナルファイナンスでは、米国などの金利上昇による不良債権問題の恐れはありませんか。
回答	招集ご通知 47 ページに記載の通り、今年度のトップリスクのひとつであるクレジット・クオリティの悪化を回避するための方策に取り組んでおります。今後も、海外を含めた貸出については、慎重かつ選択的に取り上げを進めてまいります。

コメント 9	IT/DX 専門性を有する役員が大見副社長お一人ですが、複数の人材を充てる必要があるのではありませんか。
回答	当行は、デジタル化の促進をサステナビリティ重点項目のひとつと位置付け、マネジメント層を含めた人材の強化に積極的に取り組んでおります。取締役会におきましても、サイバーセキュリティ等に関する議論を継続的に行う等、取締役会メンバーの知見の向上を行っております。

その他のコメント	「映らない」、「アクセスに手間取りました。」、「質問しようとしたらログアウトしてしまいました。」など配信インフラに係る複数のコメントをいただきました。
回答	貴重なご意見をありがとうございました。次回以降の総会運営に向けて、改善に取り組んでまいります。

以 上